

1	学校教育目標	かかわり合いをとおして、夢に向かってがんばる子ども
H26	重点目標①	確かな学力の定着 ～関心・意欲も含めた基礎学力と活用力～
	重点目標②	豊かな心情の育成 ～相手の立場を考えた言動～
	重点目標③	健康な身体づくりの推進 ～体力向上とより良い生活リズム～
	重点目標④	保護者・地域との連携 ～学校課題の共有、協働で子どもを育てる組織づくり～
2	現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
1	<p>個に応じた基礎学力の定着 ・基礎学力の定着を図る授業づくり ・すすんで毎日読書しよう(チャレンジ目標)</p> <p>達成状況: 児童による授業評価 3.9 教員による授業評価 3.75 保護者による授業評価 3.2 (評価基準 3.5)</p> <p>評価テスト80点以上80% 84.6% 一人1回以上の公開授業 100% チャレンジ目標達成率100% 100%(年度末3月)</p> <p>検証結果: 校内研修を通して、算数科における「むぎ・が・わ・パワー・ふる」と「教えて考えさせて定着させる授業」とを統合させた授業づくりにより、基礎学力の定着が図られてきている。単元評価テスト(基礎・基本)の平均点80点以上80%の評価基準も達成できたが、学年が上がるにつれて個々の学力差が広がり、引き続き個に応じた指導や支援が必要である。朝学習と家庭での予習・復習が全体として定着してきているが、帰宅後の生活習慣も個別の指導が必要である。複式指導の解消や自主的・主体的な学習態度、学び合い活動の充実を今後も推進していく必要がある。チャレンジ目標達成率は2学期末で50%であり、全員達成に向けて働きかけを継続したい。(年度末3月全員達成)</p> <p>改善方法: 「教えて考えさせて定着させる授業」と「むぎ・が・わ・パワー・ふる」との統合推進 個に応じた指導を行うため、個々の理解度を把握し、個別指導の充実を進める。予習・復習の定着や家庭学習の充実を図るために、「家庭学習の手引き」の配付及び啓発を行う。非常勤講師や管理職の活用により、複式指導の単式化に努める。また、授業でのガイド役ができるように指導する。次年度も同様のチャレンジ目標を設定する。(月末、学期末の目標設定 帰宅後の読書時間の設定 読書活動推進の啓発 育友会との連携)</p>	
2	<p>心の安心づくり ・思いやりの心を育む教育活動とたて割班活動の実践 ・大きな声で自分からあいさつしよう(チャレンジ目標)</p> <p>達成状況: にこちゃんマーク掲示80% 76.3% 児童の自己評価3.5以上 3.6</p> <p>思いやりに係る項目肯定率90% 児童 89.7% 保護者 87.5% 教員 100%</p> <p>検証結果: 朝の「あいさつ運動」や地域への感謝の心「ありがとう作戦」など、児童主体の活動ができた。児童へのアンケートを実施することで実態把握ができ、いじめ対応の指導ができた。たて割班活動や委員会活動を通して、リーダーの育成を図ることができた。AFPYの実施や行事の中で人間関係づくりを行ってきたことにより、思いやりの心が育ちつつある。花壇や校内掲示等の教育環境を整備充実することができた。</p> <p>改善方法: 児童理解をもとにしたいじめ対応の指導を継続して行う。思いやりの心を育む教育活動を継続実践し、児童主体の活動は奨励する。児童の言語環境を整備していく。正しい言葉、やさしい言葉、さん付けで呼ぶ呼び方を奨励する。感謝の言葉が飛び交う学校にする。</p>	
3	<p>保護者・地域との連携 ・課題を共有し、協働して解決していく組織体制の機能化</p> <p>達成状況: 家庭学習時間(学年×10分)達成率100% 85% 睡眠時間8時間以上100% 88% 地域人材活用学級年1回以上 100%</p> <p>幼小、小中連携(各学期1回以上行事等の案内) 100%</p> <p>検証結果: 家庭学習・ゲームテレビ視聴時間・朝食などの家庭連携に課題がある。「麦っ子見直し週間・チャレンジ目標カード」等の成果が出ている。「麦川安全・安心みまもり隊」の皆さんとの年3回の一斉下校、地域の方々の安全指導により安全意識が高まっている。地域人材の活用を積極的に行い、児童の学びを深めることができた。地域連携コーナーを校内や学校だよりに設け、発信の工夫をした。</p> <p>改善方法: 家庭連携に課題がある項目への取組の工夫 「麦っ子見直し週間・チャレンジ目標カード」の継続 地域人材の活用推進 児童へのフィードバックの工夫 地域連携コーナーを校内や学校だよりなど発信の工夫 幼小、地域、保護者との連携推進</p> <p>本年度スタートのコミュニティ・スクールに関わる課題の共有と協働で、児童を育てる組織体制づくり</p>	
3	本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
①	<p>・本校授業スタイル(むぎがわパワーふる)と「教えて考えさせて定着させる」授業の統合 ・ガイド学習の推進 ・予習、復習の定着と家庭学習の充実</p> <p>・複式指導における共学びや個別指導の充実 ・朝学の時間の活用 ・やまぐち学習支援プログラムの利用</p>	
②	<p>・体験を見つめ、生活の場へつなぐ道徳指導の充実 ・思いやりの心情を高める子ども主体の縦割り班活動の推進 ・言語環境の整備</p> <p>・体験活動やAFPYによる望ましい人間関係づくり</p>	
③	<p>・健康タイムの継続と外遊びの奨励 ・基本的な生活習慣づくり(校内・校外生活) ・体育、保健授業の充実 ・食育の推進(食生活、学校給食)</p>	
④	<p>・学校運営方針の説明・承認 ・教育活動支援 ・学校課題協議 ・情報共有と地域貢献</p>	

4 学校による自己評価					
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準(数値目標)	達成度	重点目標の達成状況の自己診断・自己分析
学力	<b>確かな学力の定着</b> 一人ひとりの基礎学力と活用力の育成	○「むぎ」「が」「わ」「パワー」「ふる」と「教えて考えさせて定着させる授業」とを統合させた授業への取組 ○三者と地域住民による授業評価の実施(参観日や学校評価アンケート)と結果分析及び授業改善 ○朝学習の実施と家庭での予習・復習、サマースクールによる基礎学力の定着 ○単元評価テストの実施と結果分析及び指導 ○全児童の個人カルテ作成と指導・支援 ○「やまぐち学習支援プログラム」を活用した個別指導と活用力の向上 ○研究授業の実施と授業力の向上 ○読書記録の作成及び月ごとの達成状況の把握による読書活動の推進(読書ノートへの記録、読書タイムの確保、図書委員会による啓発、家庭での読書活動の推進)	○三者(児童・教師・保護者)による授業評価3.5以上、学校評価アンケート肯定率85%以上 ○4教科評価テスト ・基礎・基本にかかわる観点(知識・理解、技能、読み、言語事項等) 80点以上80% ・活用力にかかわる観点(思考力・判断力・表現力等) 65点以上80% ○年間一人一研究授業の実施 ○チャレンジ目標(読書) 達成率100% (3月1現在:74%)	3	・本校学習過程と「教えて考えさせて定着させる授業」との統合により、児童の確かな学力の定着に努めてきたが、三者による授業評価(児童5・6年:3.51保護者:3.18、教師3.4)や学校評価アンケート肯定率85%以上に対して約81%という結果であった。特に、3年以上の複次学級における「分かる授業」づくりをより推進していく必要がある。 ・基礎学力の定着、活用力の向上をめざして、朝学習、家庭での予習・復習の習慣化、サマースクール等を実施した。4教科の単元評価テストで、基礎・基本にかかわる観点で80点以上80%、活用力にかかわる観点で65点以上80%以上と数値目標を設定したが、2学期末の結果では基礎・基本が約74%、活用力が約81%という結果であった。活用力では、設定した65点以上が少し低く過ぎた。基礎・基本では、落ち着いてしっかりとよく聞いて考える姿勢が十分とは言えず、併せて家庭での学習習慣が身に付いていない児童(学校評価:児童・保護者合計約70%)もあり、結果に影響していると考えられる。また、複次指導における「教える」過程で、両学年を渡って、いかに分かりやすく指導するかということも重要であると考えられる。 ・年間一人一研究授業は、達成できた。今後も研究授業を通して、授業改善を図る必要がある。 ・各学年で読書記録を作成するなど、チャレンジ目標達成に向けて取り組んだ。チャレンジ目標にかかわる達成率は、3月1日現在31人で約74%という状況であり、達成率100%に向けて、個別に支援をしていく必要がある。
心情	<b>豊かな心情の育成</b> 相手の立場を考えた言動ができる児童の育成	○チャレンジ目標「大きな声で自分からあいさつをしよう」の自己評価ポイント制によるチャレンジの木掲示(企画委員会) ○あいさつ運動の推進(企画委員会+他の委員会) ○アンケートを基にした教育相談及び相談結果に基づく生徒指導 ○児童理解の会等において全校指導体制を確立 ○縦割班活動や委員会活動等のリーダーの育成 ○道徳教育及び道徳の授業の充実 ○教育環境の整備と充実	○チャレンジ目標「大きな声で自分からあいさつをしよう」の自己評価ポイントにより、チャレンジの木掲示80%以上 ○児童による自己評価3.5以上 ○学校評価「思いやりの心に係る項目:道徳」肯定率90%以上	3	・登校時のあいさつ運動は、企画委員会だけでなく、他の委員会にも協力してもらい、自己評価の3.5を達成した。しかし、廊下ですれ違うときや教室内で、自ら進んで挨拶をしようとする児童の態度が見受けられない。 ・「思いやりの心に係る項目:道徳」にたいしての評価は、保護者は90%以上だが、児童の肯定率は、65%である。人の話をよく聞くということが、まだできていない児童が多いのでないだろうか。
体力	<b>健康な身体づくりの推進</b> 体力向上と食育を推進し基本的な生活習慣づくりにより健康な身体づくりの育成	○元気手帳の活用(学期始めの月) ○健康タイム(月・水・金) 10分間全校運動実施 ○昼休み(木) 全校遊び実施 ○学校保健安全委員会を食育をテーマに実施 ○生活アンケートの実施 ○給食試食会の実施	○毎日運動 ・晴れの日20分以上 ・雨の日10分以上 ○生活アンケート ・朝食摂取率95%以上	4	・学期毎の体力に関する行事に向けて、健康タイムを活用できた。 ・昼休みに体育委員会の児童を中心に、自主的に、全校遊びを行うようになった。 ・朝食摂取率は、ほぼ100%であった。しかし、4年以上に行った朝食の栄養バランス調べで、バランスがよかったのは30パーセントであった。継続的な児童への指導や家庭への啓発が必要である。
連携	<b>保護者・地域との連携(コミュニティ・スクール)</b> 学校課題を共有し、協働で子どもを育てる組織体制づくり	○「麦っ子のまなび」(家庭学習の手引き)配布 ○学校・学級より等による保護者との連携・啓発 ○麦川小ホームページによる情報発信 ○育友会、麦川安心・安全みまもり隊、むぎがわ元気クラブ、むえんたんの会との連携 ○コーディネータとの調整による「麦っ子応援団」の募集 ・環境整備(剪定・草取り・図書館整備等) ・学習支援(水泳・地域学習等)	○家庭学習時間 学年×10分 達成率80% ○ホームページの更新 月2回以上 ○学校運営協議会の開催 学期に2回以上 ○課題の解決に向けた地域人材の活用 各学級学期に1回以上	3	・家庭学習時間を達成したと感じているのは、児童が65%、保護者が76.2%であった。学級または個人による差が大きいことがうかがえたため、家庭学習の内容・量・個に応じた課題を検討するとともに、主体的に学ぶ姿勢を保護者とともに育成する必要がある。 ・ホームページは、毎月2回以上の更新を行った。発信内容は活動報告が中心であったが、保護者や地域の方々にはしっかり足を運んでいただくための事前の紹介にも力を入れる必要がある。 ・学校運営協議会は、学期に2回ずつ年6回開催した。学校課題の解決に向け、コーディネーター(教頭)がもっと調整を図る必要があるように思う。 ・地域人材の活用率は86.6%だった。今年度の支援を来年度につなげていく手立てが必要である。

5 学校評価総括(取組の成果と課題)	
学力	・校内研修を通して、算数科における「むぎ・がわ・パワー・ふる」と「教えて考えさせて定着させる授業」とを統合させた。今後とも、基礎学力の定着と活用力の育成を図る必要がある。 ・朝学習と家庭学習での予習・復習が全体として定着してきているが、帰宅後の生活習慣においては、個別の指導も必要である。 ・学年が上がるにつれて拡がっていく学力差へ対応するため、個に応じた指導や支援を検討する。 ・複次指導の解消、自主的・主体的な学習態度の育成、学び合い活動の充実を今後もめざす。
心情	・児童理解をもとにしたじめの早期発見・対応を、今後も全校体制で継続して行う。 ・「あいさつ運動」や「麦川ありがとう作戦」など、児童主体の活動ができた。今後も奨励することで思いやりの心を育む教育活動を実践する。 ・たて割班活動や委員会活動を通して、リーダーの育成を図ることができた。 ・掲示物による啓発等、教室環境の整備を進めることができた。今後は、「呼び捨てをしない」「相手をほっとさせるほかほか言葉を紹介する」などの取組により、児童の言語環境の整備に努める。
体力	・「麦っ子見直し習慣」「チャレンジ目標カード」等の成果が出ている。 ・体育委員会の児童を中心に「体幹プロジェクト」や「全校遊び」を行うことで、全校児童に運動を推進することができた。 ・運動への取組が二極化している。定期的な運動をしていない児童への効果的な働きかけが必要である。 ・朝食の摂取率は高い。今後は、栄養のバランスについての指導を中心に行っていく。
連携	・家庭学習の時間については、学級または個人による差が大きいので、家庭学習の内容・量・個に応じた課題の検討、学ぶ意欲の育成に力を入れる。 ・学校課題の解決に向け、発信する情報の充実を図るとともに、保護者や地域の協力を得るための連携体制を強化する。 ・交流学習が児童にとって魅力的なものになるよう、内容や形態等を検討する。また、新しい出会いや地域のよさ・温かさ等を実感できるよう指導を工夫する。 ・地域人材の効果的な活用のために、「麦っ子応援団一覧表」を作成する。地域貢献についても、児童に考えさせる場を設ける。

6 学校関係者評価		評価
学校運営協議会からの意見・要望等(・学校における取組の状況 ・目標の達成状況 ・自己診断、自己分析について ・改善方策)		
学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合う活動には言葉と行動を伴うため、思いやりの心を育てることにつながっていくと思う。</li> <li>・条件に沿って表現する訓練は、大変大事なことだと思う。</li> <li>・日記への取組等により、書く習慣化や書くことへの意欲付けを行ってほしい。</li> <li>・サマースクール等での算数の補習は、授業日でないため全員参加でないことが残念だが、今後も継続してほしい。</li> <li>・押し付けではなく、なぜ勉強しなければならないのか、なぜ必要なかを教える必要もあるのではないかと。</li> <li>・理解できたときには、しっかり褒めることも大切である。</li> <li>・達成感も味わわせてあげる方法も取り入れてほしいと思う。</li> <li>・目標や方針について、学校運営協議会委員は理解できているが、子どもや保護者に十分伝わっていないように思う。</li> </ul> <p>《チャレンジ目標:読書》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書目標達成は素晴らしいことである。</li> <li>・読書ノートへの取組は、読みっ放しにしないという点で、有効だろうと思われる。</li> <li>・読書のとらえ方(乱読・精読)により、育成する力が異なってくるのではないかと。</li> </ul>	3.3
心情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの課題は親の課題であると思う。</li> <li>・楽しい行事への参加は多いが、地域総がかり運動等、奉仕活動への参加は少ない。「お世話になった」という気持ちを育てる機会を増やすことが必要である。</li> <li>・他人の世話ができない子が増えている。</li> </ul> <p>《チャレンジ目標:あいさつ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来校者へのあいさつが十分でない。</li> <li>・あいさつの意義を児童自身が感じているか。(声の大きさ・表情からの気づき)</li> <li>・あいさつや返事の大切さは、継続し伝えることで身に付くものだと思う。親としての目標も必要ではないか。</li> <li>・あいさつは、コミュニケーションの基本だと思う。子どもの頃から進んであいさつをする習慣が大切である。それにはまず、家庭では保護者、そして学校では先生方が率先して子どもにあいさつをすることがよいのではないかと。押し付けではなく、自然と心から共感したいと願えることで、思いやりの心にもつながると思う。</li> </ul>	3
体力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差(体力・通学距離など)があるが、学校ではよく指導している。</li> <li>・徒歩通学により体力がついている。</li> <li>・短時間のトレーニングの導入(課題となっている体力)</li> <li>・体幹トレーニングは、保護者にも教えていただき、家庭で子どもと一緒に取り組むのとよい。</li> <li>・運動会では、「ソーラン節」といった伝統的な言葉と踊りも大変よいが、Eテレで放送していたようなエグザイルのダンス等も子どもたちが意欲的に取り組めるのではないかと。</li> <li>・運動というよりは、遊びを取り入れたことはよいと思う。</li> <li>・スポ少などに対しても、サポートをしっかり行っていただきたいと思う。</li> </ul> <p>・バランスのとれた食事の必要性は、保護者への啓発にさらに力を入れ、継続してほしい。</p>	3
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを充実してはどうか。</li> <li>・家庭の教育力を向上させることが必要である。</li> <li>・「ありがとう作戦」は、頻度を増やすとともに保護者や地域の方にも参加を呼びかけていくと連携を深める契機となるのではないかと。</li> <li>・児童・保護者・教職員の3者の連携は図られているが、地域との連携はそれぞれ強化が必要である。</li> <li>・保護者同士の交流はあっても、保護者と地域との交流はわずかである。</li> <li>・地域的に協力できることがあれば、できるだけ協力したい。(校地内の環境整備等)</li> <li>・「麦川の昔の話」を地域の方にも聞かせてほしい。炭坑で栄えた当時の様子を知る人も少なくなっている。</li> <li>・家庭・学校・地域とが連携して、今後も元気で明るい麦っ子の育成に協力できることを願っている。</li> </ul>	3
7 次年度への改善策		
学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教えて考えさせて定着させる」授業と「むぎ・がわ・パワー・ふる」との統合のさらなる推進</li> <li>・複式指導の解消や個に応じた指導・支援に向けた体制づくり</li> <li>・家庭学習の習慣化(予習の仕方の具体的な指導、個に応じた課題の工夫、学ぶ意欲の向上、家庭への啓発の工夫)</li> <li>・帰宅後の生活の中に読書時間を設定するための啓発活動</li> </ul>	
心情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの意義や気持ちの伝わる方法について考える機会の設定</li> <li>・児童会活動の活性化による思いやりの心情や感謝の気持ちの育成(「ぼかぼか言葉集め大作戦!」「地域に伝えよう!感謝の気持ち」など)</li> </ul>	
体力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の時間に課題となる体力を向上させるための短時間トレーニングの導入</li> <li>・健康タイム等の活用による運動習慣化に係る取組の継続</li> <li>・運動を伴う外遊びの奨励(体育委員会による企画、遊具の活用)</li> <li>・「麦っ子見直し習慣」「チャレンジ目標カード」「元気手帳」等の継続</li> <li>・家庭との連携に課題がある項目への取組の工夫(家庭で実践可能な体幹トレーニング・栄養バランスのよい朝食レシピの紹介、給食試食会実施等)</li> </ul>	
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題の解決に向けた情報発信の充実とコーディネーターとしての役割の強化</li> <li>・教職員と地域の連携体制の強化のための手立て(区長や「子ども110番の家」との連絡・調整、行事への参加啓発)</li> <li>・保護者と地域の連携体制の強化のための手立て(「麦川安心・安全みまもり隊下校」や「麦川ありがとう作戦」への参加・協力依頼)</li> <li>・児童が主体となる地域貢献の工夫</li> </ul>	